

1 主題名 認め合い学び合う心を 2-(5) 自他の尊重

2 資料名 言葉の向こうに (出典：文部科学省「私たちの道徳」)

3 主題設定の理由

(1) 生徒の実態

調査実施日：平成**年**月**日 (調査人数**人)

<ul style="list-style-type: none"> ・自分が使用できる携帯電話もしくはスマートフォンを持っていますか。 持っている(*人) 家族のものを使っている(*人) 持っていない(*人) 家にパソコンがある(*人) ・インターネットやSNSで嫌な思いをしたことはありますか。 ある(*人) ない(*人) ・インターネットやSNSを利用する上で大切なことは何ですか。 悪口を書かない(*人) 相手のことを考える(*人) 個人情報を載せない(*人) 知らない人とは関わらない(*人) 言葉遣いに気をつける(*人) ・あなたは自分と異なる考えをもっている人に対して、どのように感じますか？ 理解しようとする(*人) 相手の言うことには理由があると考える(*人) 人それぞれだから違っていても気にしない(*人) 人は人、自分は自分(*人) どうでもいい、気にならない(*人)

本学級の生徒は、明るく元気の良い生徒が多く、挨拶も意欲的に行うことができる。協力して何かに取り組む場面も見られ、おおむね学級内では穏やかな人間関係を築けている生徒が多い。しかし、まだ精神的に幼い生徒や我が強い生徒がおり、相手の気持ちを思いやれない言動から、人間関係をうまく構築できない生徒も見られる。アンケートの結果から、すべての生徒が自由にネットにアクセスできる環境にいる状況である。インターネットを利用する上で大切なことは何かという質問には、「悪口を書かない」「相手のことを考える」「個人情報は載せない」など、ネットモラルについて触れている生徒が多く、知識としては身に付いているようであるが、実際にネット上のトラブルに巻き込まれる不安を感じている生徒はほとんどいなかった。このことから、ネット上のトラブルを自分のこととしてあまり捉えていないと判断できる。

(2) 学習指導要領との関連

内容項目2-(5)は、「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。」ことをねらいとしている。人は、全体を見通した上で物事を判断すべきだと理解はしているが、自分なりの視点から物事を捉えがちである。しかし、相手の考えや立場を理解し、尊重し合うことは社会生活において必要不可欠なスキルである。異なる考え方を認め、時には許す寛容さや広い心を育てていくことが求められる。

(3) 主題(価値)に対する教師の考え

顔の見えない相手に対して、それぞれの個性や立場を尊重し、広い心で互いを認め合ったり学び合ったりしていこうとする心情をもたせ、実生活においてもそのような関わり合いができるように指導していきたい。また、情報環境が飛躍的に進歩し続けている現代において、情報モラルやネット上のコミュニケーションは便利な反面、危険性も潜んでいる。そこで、相手の立場を尊重し、いろいろなものの見方があることを理解する道徳的判断力を育てるとともに、他者の考えや意見に耳を傾け、そこから学んだことを実生活に生かしていく道徳的実践力を身に付けさせたい。

(4) 指導観

本資料は、主人公がネット上のあるスポーツ選手のファンサイトに熱心に投稿する中で起きた出来事についてである。A選手に対する批判的な書き込みに、強く反発した主人公に対して、周囲はいさめる言葉をかける。最初はどのように自分が責められるのか理解できなかった主人公であったが、「相手の顔を思い浮かべてみて」という言葉に、「大切なこと」に気付くという内容である。本資料より、ネット上という環境の中で、相手の顔が見えないからこそ、その相手の個性や立場を尊重してコミュニケーションをとることの大切さを感じさせ、広い心で互いを認め合い、学び合っていこうとする態度を育てたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方があることを理解して、寛容の心をもとうとする道徳的判断力を育てる。

(2) 準備・資料

・読み物資料 ・テレビ ・挿絵 ・短冊 ・ワークシート

(3) 展開

配時	主な活動と発問	予想される生徒の反応	教師の支援・評価 (◎は評価)
つかむ 5分	1 あるホームページの書き込みを見てどこのファンサイトのものかをあてる。	<ul style="list-style-type: none"> ・そんな書き込みをするなんてひどい。 ・こういうことを書く人は、本当のファンではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的、攻撃的な書き込みも紹介しながら、展開につなげていく。
考える 15分	2 資料「言葉の向こうに」の前半を読んで話し合う。 ○ あなたも掲示板を見ている一人として書き込みをしてみましょう。 ○ 加奈子の書き込み「負け惜しみなんて最低。悔しかったら、そっちもゴール決めたら」についてどう思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> 〈A選手擁護派〉 ・A選手のゴールで優勝したんだよ。ひどい書き込みをしないで。 〈A選手非難派〉 ・お前はA選手の本当の姿を知っているのか。 〈慎重派・傍観派〉 ・A選手が嫌われているって本当に確かな情報なの？ ・「ずるい」とか書いちゃだめだよ。 ・書き込みをしない。(関わると自分もエスカレートしてしまいそうだから。トラブルに巻き込まれたくないから。) ・A選手の文句を書かれたままでだまっていられない。 ・ひどい言葉を書いている人に、ひどい言葉で応酬しているの、同じレベルだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A選手を応援したい加奈子が、悪口に対して反論することはいけないことなのか、とゆさぶる。
深める 20分	3 資料「言葉の向こうに」の後半を読んで話し合う。 ○ 「中傷する人たちと同じレベルで争わないで」という書き込みを見て、加奈子はどのようなことを思っただろうか。 ◎ 加奈子が発見した「すごいこと」とはどんなことだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・私は悪くない。悪いのは、悪口を書いてくる方だ。 ・何も反応しないと、私の負けになる。負けてたまるか。 ・A選手を守るためだったのに、自分が責められるのはおかしい。 ・コミュニケーションってただ言葉のやりとりをするだけじゃないんだ。 ・顔が見えないからこそ、言葉って大事にしないと。 ・字面だけにとらわれないことが大切。 ・ファンだけでなく、他の人々の立場に気付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「A選手への悪口や批判」が「私への批判」に変わっていることを押さえることで、情報社会の特性を理解させる。 ・資料タイトル「言葉の向こうに」の続きに入る言葉を押さえ、「言葉の向こうにいる人々の顔」を強調する。 ・「なぜ、加奈子は気持ちが変われたのか」を問うことでねらいに迫る。
振り返る 10分	4 「私たちの道徳」P72を読む。 5 今日の授業を通して学んだことや感じたことをワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これからはそれぞれの個性を大切にしていきたい。 ・言葉も大切だし、相手の気持ちを考えることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あえて解説はせず、それぞれが思いを深められるようにする。 ◎いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、道徳的価値を高めることができたか。